

平成 22 年 4 月 27 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007 ～2010

課題番号：19520212

研究課題名（和文）英詩における形式と内容—ラーキンとその関連詩人を中心に

研究課題名（英文）Form and Content in English Poetry-Larkin and Other Related Poets

研究代表者

宮内 弘 (Hiromu Miyauchi)

京都大学文学研究科・教授

研究者番号：90047407

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：英米文学、英詩、ラーキン、形式、韻、言語分析

## 1. 研究計画の概要

ラーキンとその関連詩人における形式と内容との関係

（説明）ラーキンを中心に、彼に大きな影響を与えたと考えられているイェイツ、ハーディ、シェイクスピアなどの詩作品に見られる形式、すなわち押韻形式、韻律、統語法、単語などを具体的なテキストに即しながら綿密に分析し、それぞれの詩人における形式上の特質を明らかにした上で、詩の内容との関係を追究する。これらの研究は主としてイギリスのハル大学の図書館とその内部にあるラーキン資料室の資料を利用しながら行う。

## 2. 研究の進捗状況

## 1) ラーキンにおける形式と内容との関係

（説明）ラーキンの未調査の草稿や資料を調査した。特にラーキンは韻に対して強い関心を持っているので、特に押韻形式と詩の内容との関係に焦点を合わせて研究した。その結果、比較的長い詩において、これまで他の詩人が用いたことのない押韻形式で独特の効果を出していることが分かった。また不完全韻と完全韻とを巧みに使い分けることによって、話者や詩の中の人物が抱く微妙な感情の変化や不釣り合いな関係を見事に示唆していることを具体的な作品の分析を通して実証した。また彼の作品に見られるさまざまな二重構造を指摘し、それが詩の内容とどう関わっているかを検証した。

## 2) イェイツ、ハーディ、シェイクスピア、

ヒーニー、スペンサー、テッド・ヒューズなどの詩における「重ね合わせ」と「埋め込み」の技法を中心とする、形式と内容との関係。

（説明）上述のラーキンの関連詩人についても、ラーキンの場合と同様に、押韻形式、韻律、統語法、単語などを具体的なテキストに即しながら、綿密に分析し、内容との関係を研究した。またラーキンとの比較を試みた。

次に、詩の特質であると考えられる「重ね合わせ」と「埋め込み」の技法を内容との関連において、上述の詩人の作品の中で具体的に考察した。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

（理由）

研究計画調書の年次ごとの研究計画に沿って、ほぼ予定通り研究を遂行している。

## 4. 今後の研究の推進方策

これまでやり残してきたラーキンの作品に見られる押韻形式、韻律、統語法、単語を分析して、ラーキン独自の特徴をあぶり出し、詩の内容との関連性を追究していくと同時に、さまざまなレベルにみられる二重性をより一層明らかにしていきたい。またイェイツ、ハーディ、ディラン・トマス、オーデンにおける形式上の特質がラーキンの詩にどのような影響を与えたかを具体的なテキストに即しながら考察していきたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- 1) 宮内 弘 「英米詩における形式と内容—『重ね合わせ』と『埋め込み』の手法」『京都大学文学部研究紀要』第49号、2010年 査読無 pp.73—99.
- 2) 宮内 弘 「イエイツ、ハーディ、ラーキンにおける形式と内容」『京都大学文学部研究紀要』第48号、2009年 査読無 pp.1-32.

[学会発表] (計 件)

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]